



ことばの宝石

正信偈



帰命無量寿如来（きみようむりようじゆによらい）
南無不可思議光（なむふかしぎこう）

（書き下し文）

無量寿如来に帰命し、

不可思議光に南無したてまつる

これは、

「親鸞、無量寿如来に帰命いたしました。

親鸞、不可思議光に南無いたしました」

と言われているお言葉です。どこにも「親鸞」とはありませんが、これは「向かいのおじさんが無量寿如来に帰命した」と言われているのでもなければ、「妻が不可思議光に南無した」と言われているのでもない。聖人ご自身のことをおっしゃっているのですから、

「親鸞は」ということになります。

●本師本仏の阿弥陀如来●

「無量寿如来」「不可思議光」とは、阿弥陀如来のことです。阿弥陀如来は、「阿弥陀仏」「弥陀如来」「弥陀」とも言われる仏さまのことで、蓮如上人は、

弥陀如来と申すは、三世十方の諸仏の本師本仏なり

と言われています。

地球上で仏のさとりを開かれた方は、お釈迦さまだけです。これを「釈迦の前に仏なし、釈迦の後に仏なし」と言われます。しかし、大宇宙には、地球のようなものは無限と言ってもいいほどありますから、数え切れないほどの仏さまが大宇宙にましますのだと、お釈迦さまは説かれています。それらの仏方のことを、蓮如上人はここで「三世十方の諸仏」と言われているのです。

「三世十方」とは、仏教では大宇宙のこと。大日如来や薬師如来、よく知られている奈良の大仏はビルシヤナ如来と言われる仏ですが、皆、三世十方の諸仏のお一人です。

その大宇宙にまします仏方の、本師本仏が阿弥陀如来である、と言われている「本師本仏」とは、仏の中の王様、先生の仏、指導者のことで、すべての仏方は、皆、阿弥陀如来のお弟子ということになります。

お釈迦さまも、「三世十方の諸仏」の中の一仏ですから、阿弥陀如来とお釈迦さまの関係は、先生と弟子、師弟関係なのです。

弟子の使命は、先生の御心を一人でも多くの人に伝えること以外にはありませんから、弟子であるお釈迦さまは、先生である阿弥陀如来のことばかり教えていかれました。

本師本仏と仰がれるのは、たくさんのお優しい力がある、他の仏とは桁違いの仏徳をそなえておられるからです。阿弥陀如来は、そのお徳、力に応じて色々なお名前を持っておられ、中でもよく言われる二つが、「無量寿如来」と「不可思議光如来」ですから、親鸞聖人は『正信偈』の最初に、阿弥陀如来のことを、この二つのお名前で呼ばれているのです。

●救われた、助けられた●

次に、「南無」はインドの昔の言葉、「帰命」は、中国の昔の言葉です。

続きはメール登録後のプレゼントでお読みください。